

令和7年度 江戸川区立南小岩第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	◎ 考える子<問題解決力> ◎ 思いやりのある子<人間関係形成力> ◎ 健康な子<実践力>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	【学校】 ◎いじめを発生しない学校 ◎誇りに思える学校 ◎希望に育ち溢れ、生き生きと学ぶ学校 【児童】 ◎自ら学び、課題を見つけ、よりよく解決することができる子 ◎他者のよさを尊重し、それを社会に役立てようとする子 ◎自ら健康づくりの形め、明るく活気ある生活を送ることができる子 【教師】 ◎児童の力向上を目指し、児童がたくましく育てようとする教師 ◎できたことをほめ、児童と共感する教師 ◎教育目標をより具体化するための指導にあたる教師
前年度までの本校の現状	成果 ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善に取り組んだ。 外部人材を活用した学力向上に関する取り組みを推進できた。	課題	ICT活用・学力向上・体力向上に関する取り組みを充実させていく。 ユニバーサルデザインの視点の授業改善をさらに進めていく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中継」 自己（学校）評価（A～D）	「中継」 学校関係者評価（A～D）	「年度末」 自己（学校）評価（A～D）	「年度末」 学校関係者評価（A～D）	次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	
学力の 向上	○基礎・基本の定着	・ニホっ子学習スタイルの定着 ・家庭学習強化週間の実施 ・放課後学習教室、スキルタイム（学級毎の放課後補習）の実施 ・保護者ボランティアの協力による基礎タイムの実施 ・東京ベースックドリル、区学力定着度調査の実施	・3学期65％以上が全項目達成 ・各学期1回 ・年35回、放課後30分程度 ・毎月実施、年15分間 ・3年生以上、各学期1回	A	A	・1学期57％が全項目を達成した。 ・各学期1回 ・2学期のスタディフィークを実施済。 ・1学期は計画通り実施した。 ・保護者の協力で基礎タイムを行っている ・1学期初、末に東京ベースックドリル、区学力調査を実施した。	・個別対応に注力していることに感謝します。基礎タイムを、有意義に感じている。 ・「ニホっ子学習スタイル」の10項目が毎日の繰り返しにより確実に定着すると思う。			
	○巡回指導の充実	・巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員及び各担任との情報共有、個別指導への活用 ・保護者への理解の促進（保護者会での案内）	・毎日実施、情報共有実施率100％ ・毎学期実施、当該保護者満足度90％以上	A	A	・毎回の指導について情報共有を行っている。 ・1学期に巡回指導の保護者会を実施した。	・年始から意欲強く対応している様子を見ました。ありがとうございます。 ・子供たちが色々な面で見守られている。			
	○読書料の更なる充実	・読書意欲の向上 ・読書への関心を高める「よむYOMUワークシート」の実施	・読書タイム週2回以上、読書週間年2回、読み聞かせボランティア毎週木曜日実施 ・4年生以上、年30回	A	A	・朝読書、読み聞かせボランティアは計画通り実施している。 ・よむYOMUワークシートは現在まで14回実施した。	・読む事や聞く事の関心が高くなってきて感謝している。 ・読書タイムの充実が読書意欲を向上させている。			
	○GIGAスクール環境の更なる実現	・授業中での児童用iPad活用 ・個別学習や家庭学習としてドリルパークやまるぐらンドを活用	・毎回の授業で5分以上活用 ・週1回以上、日常的に活用	B	B	・毎時間の活用はできていない。60％程度になっている。 ・朝読書、授業、家庭学習で日常的に活用している。	・iPadでの授業はすこく良いと感じる。ただ画面に近づきすぎたけ注意してみてほしい。			
体力の 向上	○運動習慣や基礎体力の向上	・ニホタイム（運動遊び）の実施 ・運動遊びに生かす為、体力テストの結果分析 ・江戸っ子縄跳びフィーク（短縄）の実施 ・縄跳びコンテストの向上を目指して ・学期毎の行事（運動会、長縄、持久走）の継続実施	・年間、毎週水曜日 ・2学期以降実施 ・年3回、実施率100％ ・区内及び近隣の学校と連携して ・各行事及び練習期間実施率100％	A	A	・2学期から火曜日の朝と昼に実施している。 ・2学期の縄跳びフィークを実施中。 ・3学期に向けて練習を伸ばしていく。 ・計画通り実施している。	・活発な環境が健康維持に役立っていると感じる。 ・具体的な取組により子供たちが楽しみながら頑張っている様子が見られほすましい。			
教育の 推進 （共生 社会の 推進）	○インクルーシブ教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点での学習環境整備 ・ユニバーサルデザインを視点とした校内研究 ・支援シートによる個に応じた対応 ・副都立等との連携の実施	・教室環境、言語環境整備100％ ・年11回実施 ・対象児童保護者の満足度90％以上 ・副都立等との連携の実施率100％	A	A	・学校で統一して、教室環境を整備した。 ・9月までに5回の校内研究を実施した。 ・SC巡回指導教員と連携し対応している。 ・副都立等は計画通り実施した。	・継続をお願いしたい。			
	○体験的活動、自主活動の推進	・地域人材、外部人材を活用した共生社会実現に向けた教育の推進 ・たてわり班（異学年交流）の実施 ・あいさつ運動の実施 ・高学年全員による読書館の実施	・年3回 ・異学年交流年間計画実施率100％ ・通年 ・区民祭り等への参加	A	A	・2学期にボニー体験、能楽教室を予定している。 ・11月の校内オリエンタリングに向けて、たてわり班活動を計画的に実施した。 ・代表委員会によるあいさつ運動は通年で実施する。	・区民祭りでの鼓笛演奏素晴らしい。将来を楽しみに思う。			
不登校、 充ちしめ めの 対応	○子どもたちの健全育成に向けた取り組み	・「L-Gate」による毎日の振り返り ・道徳教育の充実、いじめ防止授業の実施 ・校内委員会での効果的な実施、全職員での支援体制の構築	・全学級、実施率100％ ・年3回、実施率100％ ・毎月実施	B	B	・毎りの会で全学年で実施している。 ・道徳においていじめ防止の授業を実施している。 ・校内委員会は毎月実施している。	・いじめの環境づくりが、子どもたちの健全性を育む。 ・いじめ防止基本方針で、先生方の組織的な取組と事態収拾に期待する。			
	○関係機関等との連携によるいじめ、不登校等への対応	・SC（サポーター）SSW（サポーター）との連携、適切な活用 ・いじめ対策委員会による組織的対応 ・エンカレッジルームの活用	・情報共有率100％ ・事案の度に開催 ・事実把握後1週間以内で行動、成果の報告 ・保護者との連携100％	A	A	・SC、SSWと連携し、情報共有をしている。 ・事案の度に開催 ・いじめに該当する件について、いじめ対策委員会を開催した。生活指導連絡会は毎月行っている。 ・エンカレッジサポーター2名体制で運営できている。	・エンカレッジルームの活用もあり、様々な力が子供たちを助けて頂けることに感謝している。			
学校（関係機関）との実践	○地域との共生・協働	・HP（ホームページ）等による情報公開 ・学校取組と連携	・毎日更新、各学年は月2回以上更新 ・学校関係者評価A	A	A	・HPは毎日更新している。またテトルによる情報発信を日々行っている。 ・図書ボランティアと連携して図書室の整備を行っている。	・地域のお祭り・PTA関連行事への教員の参加に、子どもたちがとても喜んでいて印象的だった。			
	○学校関係者評価の充実	・学校経営方針の保護者、学校関係者への周知・年度当初 ・保護者アンケートの実施、結果の周知 ・教職員及び学校関係者中間評価による方針の修正及び追加、年度末評価の実施による次年度改善策の立案 ・学校関係者評価A	・年度当初 ・定期（年2回）、各行事後（毎回）に実施し、1か月以内の結果周知 ・9月、2月に実施後、改善策を立案 ・学校関係者評価A	A	A	・学校経営者は保護者や学校関係者に周知し、HPにも掲載した。 ・保護者アンケートの1回目を実施した。 ・中間評価を行っている。	・計画性を持って取り組まれていること、年間を通して安定した様子に感謝する。			
教育の特色ある展開	○学校における働き方改革プラン	・CA4thの積極的な活用、ペーパーレス促進 ・各分掌による文書記録、各分掌ルートによる進行管理 ・会議の効率的な実施及び時間短縮 ・SSS（サポーター）等の有効活用 ・定時活動日の実施 ・教科担任制の推進、協働体制 ・育児休業等休暇、休業制度の活用促進	・CA4thの積極的な活用、ペーパーレス促進 ・継続実施率100％ ・20分以内、継続実施率100％ ・活用率100％ ・月1回実施、残月40時間以内 ・4～6年での実施 ・教職員への周知100％	A	A	・CA4thは日々活用している。 ・文書の記録はルート回っている。 ・1回の会議が20分以内で行えている。 ・効率的にSSSを活用している。 ・80％以上は就業40時間以内である。 ・計画的に教科担任制を行っている。 ・今年度1名の男性教諭が育休を取得中である。	・学校環境が継続的に安定出来ることを望む。 ・具体的な取組内容を聞き、とても期待している。			
	○教員の授業力向上	・道徳の指導計画に基づく教育活動の計画の実施及び反省の記載 ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業の実施	・毎週、活用率100％ ・校内研究授業実施率100％	A	A	・進業を毎週提出させている。 ・校内研究には全員が参加している。	・教員と子どもとの心の距離がとても近く感じられ、担任のみならず学校全体で子どもを見守っている環境と感じる。教員のサポート体制について、よりよい環境を作ってほしい。			